

流山 九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

阿部 7140-7605 石林 7154-7511

齋藤 7143-0374 三原 7152-6559

2009.7.1 NO.40



「九条の会・流山」HP：<http://www.nagareyama9.org/> メール：info@nagareyama9.org

09 流山憲法集会



渡辺治さんを招いて講演会（その2）

5月16日、生涯学習センターにおいて、

渡辺治さん（一橋大学教授）を招いて講演会を開催した。

講演は、5つの「なぜ」に答えていく形で話が進められた。第1から第3まで前号に書いたもので、今回は第4と第5について紹介する。

**第4の「なぜ」、「麻生政権はどうやって改憲を
実行しようとしているか？ 政権交代になったら
どうなるか？」**

この問いに対して、渡辺さんは、以下のように応えた。

改憲を目指した安倍政権の挫折を見て、麻生政権は三つの新たな戦略を出してきた。

第1は、民主党を改憲に巻き込む。改憲を実現するには自民と公明では足りず、どうしても民主党を取り込まねばならない。民主党は改憲に積極的で、自らの改憲草案を出すことも表明している。そこで新たに新憲法制定議員同盟をつくり、その幹部に民主党の鳩山氏、前原氏らを就けた。また国会への憲法審査会の設置を通して、民主党を改憲の土俵に導こうとしている。

第2は、解釈改憲を先行させて9条に穴を開ける。そのためにソマリア沖の海賊問題を利用して、海賊対処法を制定。海賊対処法は、場所も、期間も制限が無く、相手への武力攻撃も可能、P3Cを派遣してアフガンでの米軍の作戦も支援、国会へは事後報告で済ませるといったもの。まさに、いつでも、どこへでも、米国の戦争に協力する形で

の軍事行動を可能にすることを目指す法律。しかも、海賊対処はもともとは民主党が提案したものだ。

第3は、改憲のための運動を再建し、9条の会などの護憲運動を規制する。全国で新憲法制定議員同盟の支部づくりを行うと同時に、護憲運動にはピラ撒き、ピラ配布への弾圧を行う。一人の活動家の一挙手一投足を、数十名の警察官を動員して2ヶ月間ビデオ撮りするなどして調べ上げ、集合住宅へのピラ配布で逮捕し、長期間拘束したあげくに起訴。また各地で公共施設を使わせないようにするなどの画策も。集会タイトルに「憲法」の言葉を掲げること自体が難しくなる地域さえ出てきている。

最後に、第5の「なぜ」、「改憲を阻み憲法を実現するために私たちは何をしたらよいのか？」

この問題に対して渡辺さんは、以下のように述べた。

第1は、憲法を62年間活かしてきた力を確信することが重要だ。憲法はただ生きてきたのではなく、60年間にわたる国民のねばり強い、真剣な闘いがあり、それに支えられてきた。この運動の成果として、世界にも珍しい62年間戦争をしなかった国、戦争の悲惨さを教育の場で教えている国、54年間人を殺していない軍隊がもたらされた。

今は改憲の策動と憲法守れの運動が綱引きをしている。『読売』の調査では改憲賛成派が15ポイント増え、『朝日』の調査でも自衛隊が海外で武力行使をしても良いという意見が反対意見を少し上回っている。その背景には、九条の会が一服状態にあり、7千までいったがそれ以降はあまり増えていないという現状もある。また改憲派が、軍国主義的な臭いを薄めようとして、もっぱら国際貢献や海賊対処を語り、北朝鮮問題などを利用した

